

合併新会社「大陽日酸株式会社」発足

平成16年10月1日、日本酸素株式会社と大陽東洋酸素株式会社の合併により、新たに大陽日酸株式会社（社長：田口 博）が発足いたしましたのでお知らせいたします。

発足式典は本社をはじめ各事業拠点で執り行われ、品川区小山の東洋ビルに移転する新本社においても、於勢会長、田口社長以下全役員が出席して合併新会社発足を祝う神事のうち、本社勤務となる社員約300人を前に田口社長から下記とおりの挨拶がありました。

記

はじめに、田口社長は「輝ける『大陽日酸株式会社』は新たな歴史の第一歩を踏み出しました。国内外関係会社240余社、米国をはじめ海外11か国に事業拠点を持ち、連結従業員7千余名を擁する大企業グループの誕生です。」と新会社発足を宣言し、「これから、私たちは日本最大・最強の産業ガスメーカーとして、2008年3月期には売上高4千億円を目指します。国内は営業力、技術力の粋を結集し事業発展の最重点とし、合わせてめざましい経済成長を遂げる中国や世界産業の中核である米国での事業展開を積極的に推進するとともに、エレクトロニクス、医療、オンサイト・プラントを事業の注力分野として、世界レベルで厳しい競争を繰り広げる覚悟であります。」と抱負を語りました。

続けて、「この本社ビルをはじめ全国各地の事業所には新たなシンボルマークが掲げられています。最先端の技術と自然との融合をイメージしたそのクリーンで透明なシンボルマークこそ、大陽日酸の今後の活動の根本となる新たな経営思想なのです。透明な経営を貫くことにより企業価値を高めその成果を株主へ還元すること、透明な経営を追求することにより事業の効率を向上させ顧客・社会に貢献していくことが私たちに与えられた使命なのです。クリーンを標榜するからこそ、公正取引・企業倫理などコンプライアンスの遵守に徹してまいります。また、当然のことながら環境問題や地域社会への貢献についても努力いたします。さらに、業界のリーディングカンパニーとして、保安、品質保証は企業存続の最重要課題との認識で取り組んでまいります。」とシンボルマークに込めた新しい経営思想を披露いたしました。

さらに、会社を強くするための重要な鍵として「組織力」を取り上げ、「当面の目標である売上高4千億円を達成したとしても、世界的な規模では引続き第6位にとどまり、まだまだ上位との力の差は歴然としています。私はこの差は組織力の差だと見ております。私たちの会社が強い会社になっていくには組織力が必要ですが、組織力というものは営業力・技術力・企画管理力の三つの要素に分解することができ、この三つの力がバランスしていなければ組織力を思う存分発揮することはできません。営業・技術・企画管理のすべてが優れていなければ、これからますます熾烈になるメジャーとの世界競争に勝ち残ることは不可能です。」と社員それぞれの能力アップを喚起するとともに、今後の社員の処遇として「私としては、業績成果に基づく人事・処遇制度を目指していきたいと考えております。皆さんがそれぞれの専門領域でプロとしての自覚を持ち最大限に働くことが前提ですが、頑張った社員には頑張った分だけ本人にも納得でき判りやすい方法で報いることが会社の方針です。すなわち会社に対しいかに貢献するかにより処遇が決まります。例えば、賞与についてはできるだけ多くの部分を業績成果に連動させ、能力のある優秀な社員がモチベーションを大いに高めていけるようにしたいと考えております。更に将来的には、会社と従業員が同じ目標に向かって努力できるという意味でストックオプションの導入も考えていく必要があると考えております。」と業績成果による人事・処遇制度について強調いたしました。

結びに「皆さん、決して本日の合併はゴールではありません。新たな飛躍への出発点なのです。合併作業は順調に進んでまいりましたが、故事に『名を成すは常に困窮のときにあり、事の破るるの多くは得意のときにあり』と言われておりますように、今こそ気をしっかり引き締めるべき時であり、これから新たな気持ちで歩んでまいりましょう。全員が「大陽日酸」の創業社員として、新社に何ができるのかを問われています。『大陽日酸』創業元年。本部、地域そして海外も含めたグループ会社が一致団結し、チャレンジャー精神でこの会社を真のメジャーに育て上げていただきたい。」と、社員一同の今後一層の奮闘を促しました。

以上



挨拶する田口社長



式典の様子